

6/21 (火) 16:45~18:45

通常稽古

統率：玉木さん

参加卒業生：なし

欠席/遅刻：磯野さん、加藤さん、朴さん、中根さん/

内田さん、村上さん、小森さん、蓮尾さん、坂元、安達

内容

準備体操

ストレッチ

独り技

後方転倒運動

周りを回る

腰送りの稽古 二人一組

前進後進技の稽古 二人一組

横面打ち四方投げ(入身)の稽古 二人一組

横面打ち四方投げ(入身)の練り稽古 二人一組 受け取り交代して10本ずつ

腕振り跳躍技の稽古 二人一組

正面打ち呼吸投げの稽古 二人一組

横面打ち四方投げ(入身)の練り稽古 二人一組 取り)一年生 受け)上級生

横面打ち四方投げ(入身)の練り稽古 二人一組 取り)一年生 受け)上級生

横面打ち四方投げ(入身)の練り稽古 二人一組 取り)一年生 受け)上級生

正面打ち呼吸投げの練り稽古 二人一組 取り)一年生 受け)上級生

正面打ち呼吸投げの練り稽古 二人一組 取り)一年生 受け)上級生

正面打ち呼吸投げの練り稽古 二人一組 取り)一年生 受け)上級生

今日のポイント：まずは技の「形」と「リズム」をきちんと身につける。「効き」はその次。

感想

こんにちは、私一年の太田です。再び1ページに渡る長い感想を書きます。先週の部誌そして新入生宣誓式では哲学云々と大見得を切りました。今度は気楽に、私を感じるままを書き連ねていきます。

梅雨入りから2週間が過ぎました。月曜の稽古が終わる頃も、まだ暑さが身体に応える季節です。何より、汗と洗った道着が乾きません。また、その類のものが苦手な私は、特に雨が降って蒸す日には、足元や壁を気にしながら歩きます。一番嫌いな季節です。これが京都なら、雨の降る南禅寺の庭も素晴らしく、梅雨にいくらかの楽しさを見出すこともできたかもしれませんが、東京は「暑苦しい」街です。いつまでもここに住み続けたいとは思いません。

そういうわけで、早くヨーロッパに行きたいです。気温が高くてもカラッとした空気に包まれているので、海沿いであれば特に気持ちよく過ごせるはずです。アマルフィやサントリーニ島など地中海沿岸の街が理想的だと思います。

加えて、(気候変動の影響で例外も増えていますが)季節の変わり目がはっきりしていることもポイントです。日本の夏は、一度去りかけてもまた戻ってくるという印象が強くあります。コートやジャケットを羽織る季節が好きな私には、少し涼しくなったと思ってせっかくクローゼットから取り出したものを結局見えるところでハンガーに吊るしたままにしておくことが寂しいことに感じられます。シベリア高気圧にはもっと頑張ってもらいたいです。

そして、新たに同期が増えたことについて前回はなぜか言及しませんでした。正直なところ、女性部員が増えるのは嬉しいです。さらに、體育會という組織はジェンダーの観点から言って特に根深い問題を抱えていると見えるので、部としても女性部員の存在感が高まることには大きな意味があると思います。ただ、こういう文脈では「女性部員」という言葉が先走りしてしまいます。これから学年が上がっていくにつれて、最終的には、ジェンダーの如何に関わらず、「その人自身がどういう存在なのか」ということを中心として、部の一人一人としっかりと向き合っていくことの重要性が増していくのだらうと思います。

結局こんなことを偉そうに言うてしまう自分ですが、今のところ具体的な行動や実践が伴っていません。前回の部誌で「バランス」ということを書きましたが、私には思考の材料となるような経験が決定的に不足しています。今はとにかく「やってみる」ことを至上命題(誤用)として日々を過ごしていこうと考えを改めました。

最後に。先週、師範に準五級を認めていただきました。頂いたフィードバックを踏まえ、振り返りをしてみると、「言われてみれば」と思うことが多々ありました。全ての課題を自ら発見していくことなどできませんが、できることから、「精度」を高めていけるよう精進して参ります。それでは失礼致します。

担当：太田 百和